

## 研究に関するお知らせ

### 当院で治療を行った胃癌症例における *Helicobacter pylori* 感染状態別の特徴に関する検討

2021年12月16日

国立研究開発法人国立国際医療センター国府台病院消化器・肝臓内科では、以下にご説明する研究を行います。この研究への参加を希望されない場合には、研究不参加とさせていただきますので、下記のお問い合わせ先にお申し出ください。お申し出になられても、いかなる不利益も受けることはございませんのでご安心ください。

#### ■研究目的・方法

*Helicobacter pylori* (以後、ピロリ菌) 感染は胃癌発生の最も重要な因子であり、除菌療法により発癌の抑制が示されました。ピロリ菌除菌が保険適応になってから胃癌死亡者数は徐々に減少傾向となりましたが、未だ年間死亡者数は2万人を超えております。ピロリ菌除菌後もピロリ菌未感染の方と比較すると、胃癌発生のリスクは高く、定期的な内視鏡検査が推奨されます。現在、ピロリ菌陰性(除菌後、未感染)時代に突入しており、ピロリ菌陰性胃癌の内視鏡的特徴を熟知し、内視鏡診療にあたることが重要となります。

そこで本研究では、胃癌に対して内視鏡的または外科的切除を行った症例を対象とし、ピロリ菌感染状態別(未感染、除菌後、現感染)の臨床病理学的特徴や内視鏡所見を比較検討することで、ピロリ菌感染状態別の特徴を捉え、日々の胃癌診療の質の向上させることを目的としました。

また、近年ピロリ菌陰性胃癌の中でも特に胃底腺型胃癌(GA-FG: Gastric adenocarcinoma of fundic gland type)が注目されています。2010年に新しい疾患概念として提唱され、胃癌取扱い規約第15版では特殊型胃癌の項に新たに追記されました。当初はピロリ菌未感染の胃粘膜に発生すると考えられていましたが、症例が集積されるにつれてピロリ菌感染に関わらず、ピロリ菌除菌後や未感染の胃粘膜にも発生することが報告されています。しかしながら、胃底腺型胃癌のピロリ菌感染状態別の特徴について明確なものはありません。本研究の副次項目として胃底腺型胃癌症例をピロリ菌感染状態別に分類し、各群間での特徴について比較検討を行います。ピロリ菌感染状態と悪性度の関連性について明らかにし、同疾患の知見を深めることを目的としています。

#### ■研究期間

理事長承認日～2024年3月

#### ■研究の対象となる方

2012年4月～2021年9月の期間に当院で胃癌に対して内視鏡的または外科的切除を行った症例を対象とします。

■研究に用いる資料・情報の種類

上記の対象期間中に診療録に記録された診療情報（症状、転帰、内視鏡所見等）・アンケート等を、研究に使用させていただきます。使用に際しては、政府が定めた倫理指針に則って個人情報に厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

■利益相反について

利益相反の状況については NCGM 利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関する研究全体及び研究者個人として申告すべき利益相反の状態はありません。

■研究計画書等の入手・閲覧方法・手続き・手続きにかかる手数料等

あなたのご希望により、この研究に参加して下さった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことや文書でお渡しすることができます。ご希望される方は、どうぞ記載のお問合せ先にお申し出ください。

■個人情報の開示に係る手続きについて

本研究で収集させて頂いたご自身の情報を当院の規定に則った形でご覧頂くことも出来ます。ご希望される方は、どうぞ記載のお問合せ先にお申し出ください。

■研究責任者：

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター国府台病院  
消化器内科診療科長 矢田智之

■お問い合わせ先

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター国府台病院  
千葉県市川市国府台 1-7-1

Tel: 047-372-3501

研究責任者 国府台病院 消化器・肝臓内科 矢田智之

研究分担者 国府台病院 消化器・肝臓内科 渡邊 亮

■掲示場所・交付場所

消化器・肝臓内科 診察室および外来窓口